

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 関特別支援学校 学校運営協議会（第2回）
- 2 開催日時 令和6年10月8日（火） 9：30～11：00
- 3 開催場所 関特別支援学校 4階大会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者 会長 ダーリンプル規子（桜花学園大学保育学部国際教養子ども学科教授）
副会長 森藤 由幸（関市民生委員・地域住民代表）
委員 深見 大輔（同窓会会長）（欠席）
高木 哲（岐阜県立ひまわりの丘第一学園 次長）
吉田 俊一（MantoManPasso 株式会社パッパ岐阜校マネージャー）（欠席）
澤井 基光（岐阜県民生委員児童委員協議会会長）
清水 恵子（各務原市福祉の里所長）
山口 南美（PTA代表）（欠席）
水野 友有（中部学院大学人間福祉学部人間福祉科准教授）（欠席）
吉田 純也（株式会社Fデザイナーズ代表取締役）

学校側 渡辺 政幸 校長
佐橋 朋子 事務部長
三宅 千絵 教頭
上村 篤 小学部主事
森 雅明 中学部主事
高橋こう子 高等部主事
藤井 大悟 教務主任

5 会議の概要（協議事項）

学校長挨拶

- (1) 各学部、寄宿舎の様子など学校からの説明
- (2) 学校課題について
- (3) 校内授業参観
- (4) 作業製品価格設定について
(意見1) 商品として売するには、製品の大きさや重さは適当か。髪留めだけではなくペンダントにしてもよいのではないか。
- (5) 意見交換
意見1：PT、OT、ST 相談について、講師や契約期間についてどのようになっているか。
→ 外部の方に年間契約し定期的に来校相談している。助言をもらったことは保護者とも共有している。

- 意見 2・現在の寄宿舎についてと閉舎後の建物の活用方法についてどのように考えているのか。
→ 新規で入舎する生徒はおらず今年で最後となる。遠隔地に住む生徒はスクールバスを走らせて通学を保障する。舎室等の活用については、県からはまだ連絡はないが、授業で活用の方向で考えている。
- 意見 3：児童生徒数の減少に伴い、中濃特支の校舎の活用の増加や行事等の合同実施があるのか。
→ 現在も、作業学習で校舎を使ったり、小学部でお風呂を利用したりしている。今後も連携していく予定であるが、具体的な行事の合同実施などの話は進んでいない。
- 意見 4：施設設備の活用について、不登校の子が来られる場所として活用するとよい。
- 意見 5：児童生徒数が減っても医療的ケアの必要な児童生徒はいるので必要な会議や研修などは変わらず続けてほしい。
- 意見 6：地域との関わりを子どもの頃から作っていくことが大事だと考えているが、交流についてどのようになっているのか。地域に根を張るためにも地域とつながる活動を作りたい。
→ 地域とのつながりを作るように、下有知小学校とは 30 年以上前から年 2 回程度交流を続けている。他に居住地校交流を児童生徒のニーズに応じて実施している
- 意見 7：地域交流、災害等への対応、いわゆる BCP（事業継続計画）の在り方について、町づくりという観点も含めて、児童生徒の交流とは別の観点で考えていくことも必要ではないかと思う。
- 意見 8：大学との協働学習、交流、国民文化祭の取組など、児童生徒が体験を通して得られた刺激はこれまでと違ったのではないか。このような機会を活用して無理なく参加できることがよい。中部学院大学の学生が毎週来ており、継続して関わるのが大事。岐阜県の教育として、インクルーシブとはどういうことか、地域の方とも考えていく、そういったことを定期的にやっていると地域の意識が変わっていくのではないか。
- 意見 9：学校課題に対して、どんな取組を具体的にやっているかを我々に知らせてほしい、ディスカッションできるとよい。
- 意見 10：発達段階、障がい特性に合わせた支援をしていて、職員が尽力していることが分かる。児童生徒が楽しく通える学校になるのは職員の方だと思っている。明日も来たいということが大事。良い学校だと感じている。

(6) 委員長挨拶

- ・教員が児童生徒一人一人のニーズを、自分らしく生きることを大事にしているのだと感じた。その考えで取り組んでいる仲間はいっぱいいると思う。働き方改革とのバランスは難しいが、教員がそこまで支援しなくても子ども自身が能力を発揮できる方法があると思う。モデルとして発信できるとよい。

6 会議のまとめ

第 2 回学校運営協議会では、授業参観も含め今年度行ってきた活動について闊達な意見交換ができ、肯定的なご意見を得た。作業製品価格についても、適切な価格であると承認を得た。学校課題など実践している取組を伝えるとともに協議委員と話し合っって様々なアイデアを出し合っているとよい。